

下京高辻堀之内町加舎家文書 (五)

藤 原 有 和

二十六 覚〔町代一件ニ付川西拾六町組年寄致同心〕

覚

同心ニ而連印仕候已上

文化十四年

一古京之町代共近来古格を失ひ町々勤向不行状ニ付八組

一統申談古格通り相改候様書付を以被申渡候得共心得

違いたし候哉不相用候然共当組々ハ尚又助九郎へ再三

事を分ケ理解有之候得共矢張不徳心之趣ニ候得者無拗

其由組々江申出候処外組茂同様之事故迎も下ニ而对談

難相調存候付組々一躰ニ而御訴訟被申上候趣聞定致然

者此上成行何れ共難斗是悲も無之段々被仰聞組町一統

御尤承届候已来右一件之始末其許方之任御意候得者如

何様ニも御取斗被下候共違背仕間敷候依茲組町年寄致

丑九月十日

太子山町 年寄 勘七

風早町 同 七兵衛

堀之内町 同 惣兵衛

山田町 同 惣助

芦刈山町 同 善助

菅大臣町 同 茂兵衛

藤西町 同 市郎兵衛

麓町 同 久兵衛

樋口町 同 半兵衛

永養寺町 同 伊兵衛

綾西洞院町 同 甚助

西高辻町 同 重兵衛

船屋町 同 安兵衛

傘鉾町 年寄 源兵衛殿

木賊山町 同 卯兵衛殿

本柳水町 同 源助殿

川西拾六町組

御年寄

并御町中

下代

文化十四年十月 町代

申上候処御深切ニ御教示被成下忝奉存候向後急度心底
相改御奉公可仕候此度了簡難被成候処御用捨被成下候
段忝仕合奉存候右御託迄一札如件

二十七 一札〔町代助九郎勤向不束ニ付御託〕

一札

一私共先々代より御組内御厚恩ニ相成候処近年私共不束
之儀相重り御組内之御目ニ余り八月十四日御寄合之席
江参候様被仰下候処銘々無抛差支之儀御座候罷出不申
ニ付御ケ条書を以被仰聞兼々御教示ニも不存心得違仕
不敬之御返答申上候ニ付無是悲御公訴ニ相成候段甚以
奉恐入候然ル処当二日之夜御寄合之席江罷出候処御組
内ノ右之始末御尋ニ相成実々当惑仕候故心得違趣御答

一札

一私儀近来御組町中江勤向不速^(東)ニ付先達而ノ段々御教示
被為成下候得共其儀共不存心得違之御返答申上候ニ付
誠ニ御認^(ト)忍難被成下候儀ヲ御憐愍を以御用捨被成下候
段忝仕合ニ奉存候然ル上者私共先代并寛政五丑正月差
出し置申候一札之通猶又此度相改申候一札猶被仰渡候
ケ条之趣得与承知仕候御組町中者勿論御預ケ被成下候枝
町并新シ町共其趣急度相守可申候為後日一札依而如件

文化十四年

丑十月十二日

助九郎

一代替り品替り之節御組町江御届ヶ申上猶又相続人相極可申候

川西拾六町御組

御年寄中江

右之条々堅相守可申候猶又古格之通急度相勤可申候若我等不埒不法之儀等御座候ハ、何時ニ而も御暇被下候共其時一言之異儀申間鋪候為後証之一札仍而如件

二十八 町代奉公一札之事

町代奉公一札之事

文化十四年

丑十月十二日

助九郎

一私先々代々差出し有之候一札并寛政五丑年正月差出し置申候一札之通急度相守可申候儀左之通

古京川西拾六町御組

一下古京川西拾六町御組并枝町新京組々之町代用御預ヶ

御年寄中へ

被成下候ニ付無油断叮嚀ニ相勤可申候

一御公儀様諸事御法度之趣急度相守御触書等延引不仕候

二十九 一札〔外組落着之上一札文面相改〕
〔彌真書〕
十九番 町代助九郎下書

様早速御組町中并枝町新京江相廻シ可申候

一札

一御公儀様御役中末々之御衆中迄茂無礼仕間鋪候御組町

中江茂右同様之無礼致間鋪候

一此度帳切并御年寄代之節御遣し被下候一札今度文面相改可被成候処当時外五組々右等之儀御出訴ニ相成私共

一先々通給分御取集被成下候次第実印持参ニ而請取ニ参

茂御札シ中之儀故右願何れとも御沙汰有之候迄右式通

り可申候

共是迄之通ニ而御遣し被下候様御頼申上候処御承知被

下候依之外御組落着之上文面相改候ハ者当御組茂同様
 文面何れ共可被成下之旨承知仕候夫迄御延為可被下一
 札依而如件

文化拾五寅年

助九郎

川西拾六町御組

年寄源兵衛殿

御組町中

右之通一札差入相託候ニ付改猶予遣申候御組限次町内
 会所席着座町代給分上書認雛形

年頭御入用何拾軒役 銀何程 何之通何西何町 年寄誰印	町夫 銀何程 何之町何西何町 年寄誰	御敷金利息 銀何程 何之通何下ル何町 年寄誰印	町代給分 銀何程 何之通 何之町
金子 白銀 何之町 助九郎	上 年五人 代買主 下 売人		

下京高辻堀之内町加舎家文書(四)

三十 談シ合之覺〔町代一件済ニ付町中心得〕

談シ合之覺

24.7×17.3cm 16丁

一 此度町代共一件の事古町よりの御願之通り相立数歳の
 積貯一時披ケ一統の悦び不可過之候是偏ニ町代共不積
 善之余殃とハ乍申全ク明君の御徳沢万民の父母たる有
 難き御仁愛の思召より出て双方俱ニ全き御取斗ひと乍
 恐難有奉存候当御奉行様の厚き御仁恵并ニ御掛りの御
 役人様方の御苦勞御心配之程疎に御心得被成候而者冥
 加なる御儀と奉存候已ニ古町より申立候通り町代共を
 皆々暇遣候ハ、彼等数年之業に放れ妻子眷屬迄も流浪
 ニ及び候半是元來我行状の悪に者心附ずして反而当時
 の年寄老分を恨ミ、憤り其怨念骨隨に徹して子々孫々
 迄も遺恨に思ひ可申儀ニ被存候其所を御上に思召して

二二二 (二二二)

彼等へハ厚き御解サトシを被為仰聞候故奉承伏之心を翻ヒルガして先非を悔過クワイアヤチを改て善心に立戻り候様ニ相成候又組町江も有難き御教諭被為有古町の規矩キョウも相立主従の礼儀を忘れすえの如くに召仕ひ候様にとの御示しを被為成下候ケ程迄ニ有難き思召を輕々敷相心得唯今度町代共の公事に勝候と而已相心得町家の衆中自ラ諷心モウをおこし鼻を高々として町威を振ひ自然と我意ニ増長致し候ハ、町代共斗を古格ニ立戻らせても己分に慎ミなきゆへ禍忽ワガイクツニ発りて御上の御咎を蒙り奉り町代共迄にも笑れん事眼前ニ候古人の言にも人至而愚なりといへとも人を責る時は明也聡明なりといへとも己を怒る時は昏コンと言ることく人の身の上非を言わんと思ハ、先吾身シノミを看みて正しくすへき肝要と被存候前にも申候ことカヘリ此度御奉行様を奉初御役人中様莫太バクタイの御苦勞御心配被為成下候付而者古町の年寄老分の功によって町代共善心に文戻り古格を相守り候様にも相成候儀京中の面目誠ニ以目出度難有御事と存迎もの事に惣京中の御衆

中御一統ニ古格ニ御立戻被成御心得違無之様致度事ニ候得共是者数万の御多人数迎も行届不申儀責て其町々ニおゐて示し合ひ御心得違の出来不申様精々致度存候事御座候

一御上の御法度御掟を急度相守廿一ヶ条九ヶ条の式目尚追々被為仰出候御触書之趣少茂違背無之様御守被成候様ニ存候

一御上を恐れ御苦勞掛奉らん様精々心掛ケ大分ハ御恐悦事年寄交代譲り等之外ハ御上江出ぬ様ニ有度事ニ存候方一無扱儀ニ而罷出候節者御前者勿論御門之出入御部屋先等ニ至迄能々相慎失礼不作法遅刻等の義無之様可被成候若被仰付候事有之候時者禮而是を承り不念無之様可被成候尤御門前ニおゐて食事等之義者唯空腹を凌シム迄も御心得被成必奢シヤケ間敷義無之様勿論酒肴等者決而御無用ニ被成且亦見舞と称して御多人数御出被成候義御遠慮可被成と被存候

一御触書并御口達等町代共江無遅滞申付置候此儀町分ニ

おゐても暫時滞無之様ニ御心得可被成候或者失念或者
取落し等之儀御座候而者誠ニ以恐入候義ニ候間兼々町
申合急度御心得可被成候事ニ候

一 五常の教を御守り可被成候五常与申候者能御案内之通
親に孝行を致主人に忠義を尽し兄を敬ひ弟を愛し夫婦
睦しく朋友に信を以交る事ニ而候改而申さすとも兼而
御心得之義ニ候得とも是を能相守る事の出来難きもの
にて候故ニ間々者親子勘当を受主人の物を取込欠落し
兄弟互ニ親の跡式の争論を仕出し夫婦争ひ候て離別ニ
も至り朋友の交りに口論喧嘩をなし町分の騒動終には
御上の御苦勞をかけ奉る様ニ相成候是全ク古へ聖賢親
切なる五常の教を致忘却人間之道を専らさるより事起
り候義ニ而古格忘却の第一ニ而候此教を能々御守り被
成候得者万事ニ行亘り物事おとなしく相成可申候元よ
り日本者神国にて正直いつわりかさらず有躰なるが神
之御意ニ叶ひ申候又仏法ハ因果の道理尤明らかにて善
悪邪正の筋合分明なる教ゆへ三国ニ渡り国家の治化に

も御用ひ被遊候儀ニ而殊ニ只今各々宗門相立候事ニ候
へ者なへて叶わさる御事と被存候仏神の冥加を蒙り候
事今世後世多ク御座候間かねく御心懸御信仰肝要ニ
被成候へハ御上ニ御苦勞を掛奉る程の事ハ大方ハ少く
相成候間此段能々御心得可被成候事ニ候

一 博奕、賭の諸勝負者勿論夫に似寄候富講の類堅御制禁
之旨度々触流しも御座候最も大に不宜儀ニ而候是等の
事よりして人心いやしく相成先祖々仕来候家業も疎く
相放放逸懦弱の輩も出来し終ニ者家を敗り新類縁者迄
も厄介を懸身の彷徨所なき儘後には悪心を起し御上の
御苦勞を掛奉る義も出来致し候間是等之類は急度御慎
可有之義と被存候

一 隠売女体之義者堅御停止ニ而候是等之儀等閑に致し置
候得者自然と風儀の乱なく基にて候幼少の婦女子何の
弁へも無之もの兎角売女歌舞妓役者等の悪き風俗を見
ならひ能き事と心得自から心立いやしく行義も乱し成
長の後他へ嫁して舅姑に仕る道を知らず夫を大切に

して家を守る事能わす甚しきニ至りては不儀乱行の族

も出来し終ニは御上の御苦勞を掛奉る是偏ニ幼稚の時

よりあしき習自ラ性ニ相成候義 最 歎ケ敷次第にて候

間右躰の悪き風俗を見習ひ不申様ニ致し度存候事ニ候

一 町代共玄関式台并ニ目立候家普請之儀相止メ候様ニ申

聞置候此義町家ニも中ニ者不用之家ニ玄関ニ似寄候事

間々相見得候様被存候惣而其分限不相応の奢りケ間鋪

家普請等御慎可被成候事ニ候

一 町代共ニ前々者法被裁付を着用致させ候趣申聞綿服儀

申付置之候此義御銘々様にも御嗜可有之義ニ而御座

候今此難有御治世の蔭ニ而物事自由なる儘ニ近來者不

相応の美服を着用し華麗風流を好族間々有之候尤奢の

沙汰ニ候間可相成たけ質素ニ致し度存候事ニ候

一 帳切吟味料之義此度相止メ候旨申聞置候此義帳切之節

者町分ニおゐて無念無之様精々相糺し後日故障出来不

申様念を入取扱可被成義者勿論の事ニ而候惣而帳切ニ

付町義諸入用万端可相成たけ減少致万事手輕ニ費無之

様取斗有之度事ニ候

一 町代共義者組町の召仕ひなれば其主人たる組町の御衆

中平常心を付若彼等存入違之筋有之時者其事の増長不

致前ニ寄り々ヨリ々時申論し善人ニ仕立候様ニ召

仕ふか主人の道ニ而候勿論主ハ家来ニ慈愛を垂れ憐ミ

を似て召仕ふへき事ニ候いかに不調法有之とて一旦

過を改たるものを毎迄も旧惡を忘れずして非法非義

の仕イ方等有之候而者反而悔を受家来に辱しめ罷る

るの類間々有之事ニ而候又町代共の申義者一円不取上

聞いれぬ事と一概に思ふも僻事ニ候若町分の為よろし

からぬ義も有之候節者彼等よりも無遠慮諫言を可申入

候真実なる諫言を不聞容は主人たるもの、道ニ非ず候

間是等者能々御心得可被成事ニ候

一 町代共一件御願申上置候ニ付町々の者万事相慎質素儉

約を相守り罷在候義ニ候然ル処此度右一件済より候ニ

付人氣相ゆるミ最早慎儉約を不及致ニ義与存候者大き

ニ心得違ニ而御座候夫慎儉約の義者常々の事ニ而御座

候乍併儉約の義をあしく心得候へ者吝嗇ニ相成申候吝
 奮と儉約と者大に様子之違ひ申義ニ候儉約と申候者無
 用の費をいとひ奢をおさへ私欲をこらへ我分限を知り
 て過不及なく財をほとよく用ひ鰥寡孤独の難渋なる者
 を憐ミ親類縁者懇意のもの迄も貧窮病氣等不時の難義
 有節者財をおします救ひ助け可相成たけ力を添るやふ
 に致し如此臨時の物入等も有之事ニ候得者平常無益之
 事に財を費さず貯置て与ふへき時は潔く人ニ与ふ是
 等を以儉約と申候なり又吝嗇と申候者慈悲仁愛の心露
 程もなく唯財宝を惜て礼義をも知らず世間の義理をも
 かまひなく一紙半銭も人ニ恵ミ助けすくふの心なく縦
 令親類縁者平常懇意の間柄ニ而も不時の難渋出来物入
 の可有と思ふ時ハ薄情ニ逡て通候族は皆義を捨て利を
 取道を忘れて欲に迷ふ是等を以吝嗇とも守銭奴とも申
 候而いやしむへき事ニ候儉約をあしく取違候へハ如此
 の類ニ陥申候間能く御考可被成義ニ被存候
 右之条々御心得之端とも相成候半哉と書記申候御町中

下京高辻堀之内町加舎家文書 (四)

御一統江御沙汰被成下度存候事ニ御座候以上

文政元年寅十一月

三十一 町代一件濟証文寫

町代一件濟証文寫

乍恐濟証文之事

23.7×16.9cm 68丁

一上古京組々江召抱置候町代政五郎又右衛門儀八郎七左
 衛門勘十郎勝助孫三郎并下古京八組之内五組江召抱置
 候右政五郎彦兵衛佐兵衛榮治儀御役所様江組町中之代
 ニ差出し置候所如何相心得候哉古格取失ひ其上寛延年
 天明年中町代共身分御示方御触書茂忘却仕權威ニ募リ
 組町々江之仕向不宜不束之儀共段々増長いたし町意ニ
 不相叶候ニ付呼寄教示いたし候得共承知不仕速茂右躰
 之心腹にてハ此上法外増長いたし如何様之心得違可仕

二三五 (二三五)

茂難斗奉存候ニ付不得止事古格取失ひケ条書を以奉願上候所町代共ハ町方之者共を支配いたし候儀ニ而前々仕来亦者御役所様願濟等之趣を以取斗權威ニ募候儀等無之旨ケ条書を以返答書奉差上候ニ付双方被召出追々御吟味中町代共ハ為証拠奉差上候敷通書付御尋之趣一々町代共無申訳不束之次第其上町代共之内先代ハ請状又者合力等之一札町々江差出置候趣共不相弁向茂有之此度承知仕元来組町々江被召抱候身分ニ而先代之者申伝へ又者仕来等ニ泥ミ不顧身分追々古格忘却仕町方之者を支配いたし候と申立并近来猶更不束之儀相重り候等後悔誤入候旨段々相詫是迄之通町代用相勤度旨相歎候ニ付此度改而左之ケ条之通り相守向後心底相改心得違之儀無之様実躰ニ相勤可申旨申之候ニ付内濟仕候趣意左ニ奉申上候

一 町代共近来身分を不顧御公用申立權威募町役を蔑ニいたし段々不実意増長仕既ニ出願以前教示仕候得とも我意を申張承引不仕心服何共難得其意奉存候間御糺之儀

奉願町代共ハ者町方御用向諸通達其外引合等之儀前々仕来之通ニ仕兼而被仰渡茂有之儀ニ付權威ケ間敷我意ニ募り候儀等無之候得とも已後迎も猶亦一同急度申合置候様ニ可仕旨申答候所古京組町々ハ者町代十人之内ニ者先代之もの町分へ差入候請状合力等之一札茂有之既ニ受状并古記ニハ給銀差遣候儀有之発端之趣者致志却当時之姿にてハ申答勝手儘申候旨猶又申立候趣町代共承伏仕以来從御公儀様被仰出候御儀急度相守候儀ハ勿論御役所様江組町中之代ニ罷出相勤候身分ニ候得者奉始御奉行様御役人中様并末々ニ至まで聊不敬之儀無之様急度相慎大切ニ相勤御公用ヲ申立權威ニ募町中を蔑ニ仕我意ニ募候儀仕間鋪旨申之候ニ付右之通急度相守後年まで忘却不仕候様申付候事

一 上古京之儀往古者御公用并町用等之節町代共江法被を着せ立附をはかせ着出候儀ニ而天明八申年火災前迄右品町々ニ残り有之候処焼失いたし当時漸々一組残り有之右之通之儀ニ御座候処素を忘れ組町々ハ申聞候儀不

相用段不埒之旨申立町代共者御用向其外之儀ニ付法被着用仕候儀前々無御座且組町申聞候儀不相用候段申立候得とも新規之儀者差支へも有之承知難仕旨申答候処古京組町よりハ右法被を着せ足半草履をはかせ候古格を以今宮神事の節西陣行亥町之もの鉾町江廻之節今ニ至り町代共召連案内為致下西陣八拾壹町組町代共江足半料として年々銀子差遣候旨申立法被着用之儀者年古き儀に附御公用并町用何事ニ付着用為致候旨申儀者難相分候得とも町代共今宮神亥之節今以行事町之案内ニ罷出足半料として銀子請取候上者古格取失ひ候儀を心不付新規之儀ハ差支へ申立候儀共相悔向後平常綿服ニ仕花麗之衣服等決而相用ひ申間敷尤何亥ニよらす組町申聞候儀少茂違背仕間敷候事

一御触書之儀者町代共一町限ニ持参仕来候所近來者廻状にいたし候故自然と遅く奉承知甚不束之仕形と奉存候且又御役所様御召出之御差紙等も前同様町代直ニ持参仕来候処此儀も近來小ものに為持越候或者廻状等に

て差越候段古格を失ひ不都合ニ奉存候間已來本人直ニ罷越候様申立町代共者持場限り數通に書分其組々の当町年寄方へ差遣し当町より組町江相廻し候仕來ニ而尤下町代ニ為持遣し候心得御座候へ共火急之御触等有之節且詰番にて御用多節者手後にも相成候儀ニ付小ものニ為持遣候義も有之長き御触書等者認之儀隙取通達遅成候ニ付銘々宅へ当町呼寄せ写取らせ候儀も有之離れ町之分者壹町限おふれかき通達仕候得とも組町之分前書之通にて且御召出之もの御座候節是又前同様ニ有之右兩様共此已後迎茂相滞不申候様早々通達可仕旨申答候処古京組町よりハ下町代共持参仕候儀も稀之儀ニ而小者ニ為持越右小もの無弁町代之風儀を見習ひ法外之儀共申聞且又離町之儀者一町限通達仕候趣申立候得とも是以偽にて離町者不及申組町ニ而茂幾組も結ひ込相廻し候故自ラ遅滞に相成候儀度々有之候旨申立候所町代とも元來御触仰通書を廻状等にて遅滞ニ為及候筋ニ者無御座儀承伏仕松原政五郎下町代弥兵衛先代

三郎兵衛義享保六年丑八月被召抱候節并其後弥兵衛代
ニ下古京仲之組拾町へ差入置候政五郎先代連印之一札
文言に茂触書持参相渡し可申と有之享保十九年巳年奥
田佐兵衛樫本専助へ御触状紙筆料受取候ニ付御触状一
所ニ当町へ相渡候旨御聞届御座候までハ拾式枚相認其
月之行事町へ持参可仕旨佐兵衛専助連印之一札良組拾
式町江差遣し御座候得者はまで一同等閑ニ相心得候儀
と奉存候已来御触書御口達并御召状等之儀ニ少も無遅
滞本人持参仕急度相達可申併勤用ニ而差支候節者下町
代共ヲ以可相達小者等ニ者為持不遣如何様共操合上町
代下町代之内にて持参聊鹿末之取斗仕間鋪事
一諸御願ニ付御役所様江罷出候節組内江抱候町代共談
合居候へ者ケ成取次も仕候得とも無左節者外組町代共
一向取次不仕頼状取ニ歸し自然と遅升^(遅カ)ニ相成御上様江
ハ奉恐候儀にて是等之儀も市中者一躰之儀警組内に召
抱候町代共不詰合候とも速ニ取次可仕儀を彼是申趣意
候付手間取らせ候儀者不実ニ奉存候間無子細取次仕候

様申立町代共ハ町方のもの諸御願に付罷出候節持場
之もの詰合居不申候速茂当番之者詰合居候ニ付滞らせ
候儀無之併御訴等夕影に罷出候町々有之御非番方詰町
代引取後御月番方御用多町代とも当番之外詰合無之節
ハ御月番方ハ御非番方江町代共付添罷越義難相成且家
出御訴等ハ事ニ寄改等被仰付候儀茂御座候ニ付於町代
部屋書付相認させ候内持場町代江申遣候様右町分之者
へ申聞候儀茂有之右之通ニ付直様取次不仕と申儀ニ者
無御座候得とも此後速茂不滞様可仕旨申答候処古京組
町々ハ差懸り候儀ハ持場町代共方江申通候儀手間取
候故不取敢御役所様町代部屋へ向罷出候得共組内之町
代共不詰合候得者詰合之もの手明ニ而も頓着不仕持場
之町代江取次之儀自然と相頼候様仕成其外返答書之趣
茂色々と取筋申立候儀ニ而差懸り候儀者町代方江申通
候ニ不及不取敢御訴申上候様安永八亥年十一月御触茂
御座候処為滞候段町方之者迷惑為致候旨申立町代共儀
右躰御触之趣も承知乍仕是迄心得違之儀も御座候に付

以来諸御願ニ付年寄共は勿論組町々御役所様江罷出候節随分如法叮嚀ニ相勤詰合町代共少茂為滯候儀決而仕間敷事

一都而御順見御触之節町代共自分罷越御見込町までも可相触義ニ御座候処無其儀御道筋町分々申通為致候儀ハ不都合之致方と奉存候右躰之儀無之様申立町代共よりは御道筋触等ハ多分差急候儀ニ付数通ニ書分御見込町々まで茂相達候而は町々々相廻り候儀隙取候ニ付御見込町江者御道筋町々々相達候様申聞候尤火急之節者持場より相達候間茂無之小番を以右御通りすぐ町々江申廻し前同様御通り筋より御見込町々江相達候儀も有之旨申答候ニ付古京組町々々者前日ハ被仰出候儀も火急被仰出候同様之取斗仕候儀不都合之旨申立町代共會得仕向後御順見之儀者都而前日被仰出候得共事ニ寄於夜中ニ御触書御差出有之左様之節町代共仕居候而者御触行届申間鋪哉ニ付右急御順見之御触書者上町代下町代之内御道筋ハ不申及御見込町々迄も無滯様早速持參可

下京高辻堀之内町加舎家文書 (四)

仕火急之節者臨期見込町々の分は町代ハ断次第御通り筋ハ申通之儀不滯様可致答之事

一年頭御礼其外入用銀其高に應し式分ハ六分まで入目をいたし兩替包ニ仕町代会所江差出候所入目ニ欠ヲ立候故不法と奉存候へ共不差遣候而者不相納扨と申儀ニ付無是悲差遣候へとも是等之儀は存外之致方と奉存候間ケ様之儀相止メ候様申立町代共ハ銀子相改候儀者前々々町代会所へ本兩替仲ケ間之者罷越町々々持參仕候銀子懸改欠シ又は難見分銀子有之節ハ右兩替屋共より町代江申聞候ニ付持參之者へ其段申聞候儀之旨申答候所古京組町々々ハ兩替包ニ仕包料差出し入目等御座候得者惡銀欠シ目者無之筈ニ御座候故聊申分無之様奉存候所右入目之上ニ欠シを立候儀不筋之申方ニ付奉願候儀ニ而相違之御答申上候段紛敷旨申立此上巨細御糺ニ相成候而者町代共仕来泥不束之次第ニ茂可相成旨相詫候ニ付以来年頭其外入用銀入目之儀向後正路ニ可仕旨申聞候事

二二九 (二二九)

一家屋鋪買得之節町代江礼銀之外吟味料として尅貫目ニ付金尅歩宛買主より差出し來候得共家持之もの諸借財之懸り合不及申其外如何様之難渋有之家屋鋪売払候節ニ家代銀引不足申候而茂吟味料差出候儀ニ候得者猶更家代銀不足仕売主之難渋者勿論町分まで難儀仕候義ニ御座候右は町代共暮し方不勝手ニ付差出ス儀御座候処當時ハ何れ茂身上柄宜敷相暮身分不相応之家作等茂仕候ニ付以來之儀は享保八年御触之通り御差留被成下度此末之儀者町分にて再応入念得与相糺売券状可奉入御覽ニ候間御役所様にて売券状江御記シ被成下候ハ、売買主共至而勝手ニ相成候旨申立町代共ハ御支配国其外他国ハ罷出候もの諸願之取次仕往古より諸御用向承相勤罷在候ニ付往古者御欠所もの并右代銀亦者毎年御金等茂被下候得共難取統候ニ付呉服所江被下候糸割符明キ有之候ニ付右糸被下候所亦者如元呉服所江被下候筋ニ相成候ニ付右代り之儀奉願町中家屋敷売買之節町内出銀二十分一之外出銀多取之猥ケ間敷義有之売買無

滞ため元録十三年辰年町代江改被仰付右家屋鋪ニ付公事出入其外借金銀掛り合且家代銀取引亦者前々ハ被仰出候御条目之外過分之出銀等無之様吟味被仰付売券状加判仕候儀ニ付為吟味料家代銀尅貫目に付金尅歩宛差出候様御触流被成下一同江配当仕來罷在候所吟味料之儀者享保八卯年御差留ニ被仰出候得とも同十巳年ハ前々之通尅貫目ニ付金尅歩宛差出し候様猶又御触流被成下候儀之旨申答候所古京組町々ハ町代共種々之由緒ケ間鋪申立候得共享保八卯年十月右吟味料御差止メ被仰渡御文言之内ニ元録之頃より町代共不勝手ニ付依頼出来候由并可相願筋ニ無之願候共御許容可有之趣にてハ無之以來迄之可為定格旨被仰渡市中難有かり罷在候処同十巳年以前之通亦候尅貫目ニ付金尅歩宛差出候様御触流有之左候へ者畢竟町代共身上不如意申立為取統奉願上候儀と奉存町代共儀其分限を忘れ當時花麗之家作ヲ仕着用等茂右ニ准し万端豊にて平日不相応之暮方仕候儀は往古給銀并二季之心付差遣無難ニ相勤罷在候

所其後吟味料配当仕其上町方之者諸御願御訴衷ニ付罷出候節々等相応之挨拶無御座候而者彼是隙取せ速ニ諸御願等取次不仕候意味ニ相成候ニ付當時之姿ニ而者諸御願御訴衷等ニ至まで相応ニ挨拶仕候様成行候ニ付追々多分之物成ニ相成身上豊ニ而候得者自ら驕奢之心起り既帳切之節罷越而茂上座を好候様成來候儀ニ而殊政五郎儀ハ天明四辰年迄ハ居町へ持前之一軒役差出シ來候処右辰年ハ差出不申候儀八郎義も持前式軒役不差出又右衛門儀者軒役差出候得共自身番等者彼是申相勤不申其外之町代共も寛政年中ハ軒役相除候儀を御上様より御免許茂被成置候哉之様ニ申成候儀ニ御座候是等之儀ハ權威ニ募候就然之証拠と奉存候旨申立候ニ付町代共申立候証拠之趣御糺被成下候所御支配配國其外他國ハ罷出候もの諸願之取次仕候ニ無相違候得共往古者御欠所物并右代銀亦者毎年御金被下候儀糸割符ニ明キ糸被下候儀等者申伝而已にて証拠之品無御座候旨申上右吟味料享保八卯年御差留之後同十巳年御触流御文言前々

之通考貫目ニ付金考步差出候様年頭入用御触之末ニ御書戴有之迄ニ而元録十三辰年十一月之御触之趣意同様為御取メ尚又町代江改被仰候儀とも不相見得町代共より御答申上候趣も御欠所物并右代銀其外被下物代り之儀相願候所右辰年御触出候趣之申立ニ符合仕候得者全依願御触御座候儀ニ町代共此度會得仕古格之通り吟味料并町代共加判之儀御差止メ之儀古京之者共より御願申上候而聊申分無之旨申聞候然ル上者町中家屋鋪売買之節町内出銀之衷寛文中元録年中御触之御趣意ニ不相背様年寄吹拳人并町用人之外出銀不差出候様互ニ急度改合其外懸り合等相糺帳切之売券状御役所様江入御高覽候間於御役所様御糺之上御印被下度且右之通売券状加判相止メ候上者已來新沽券状之奥印之儀も同様ニ相止メ於町中ニ改合右両条改而奉願度之段申聞候所是また聊申分無之旨申聞候事

一前ヶ条之内天明年中ハ政五郎儀八郎又右衛門其外町代共儀寛政年中ハ軒役等相除キ不差出候義者町代共差出

候留書之内寛政九酉年町役之儀年寄町代者不仕候哉之儀御役所様より御尋有之其節町代共御答ニ年寄之儀者其町々心得を以町役除候も有之一同には無御座板倉周防守様御代ニ被仰出候者禁中様御奉公人御公儀御奉公人并町代雑色儀者公役仕間敷旨被仰出候然共町代仲ヶ問者銘々心得にて町役仕候ものも御座候与認め有之候旨申立候得とも寛文中已来引統軒役不出と申儀者双方とも不相分町代政五郎儀者天明七末年より一軒役不出又右衛門義ハ文化七十年より自身番等相断儀八郎儀ハ寛延二巳年之頃ハ軒役差出し候得とも其後いつの頃歎式軒役不差出七右衛門儀ハいつの頃歎式軒役不差出勝助彦兵衛者軒役差出し佐兵衛義は寛延年中居町江相對之上不差出永次儀もいつの頃歎不差出勘十郎義は年貢地ニ住居仕何れの町分へも抱り不申候ニ軒役不差出何れ茂区々にて寛文中留書之通不差出と申訊も無之勿論御役所様御願濟ニ茂無御座候上ハ双方不速^(忠)之儀共申上奉恐入候ニ付申談之上向後区々ニ不相成様

町代共居宅軒役并町入用共差出答ニ取極候事
 一年寄役交代之節御役所様江奉差上候御受状之外ニ町代共方江町役より一札を取候儀有之右者町代共方ニ而取斗候故無益之印形仕候向後ハ年寄共より直々御受状奉差上候様仕度旨奉願町代共よりハ町々年寄代り之節年寄印形有之一札取候儀最初者明暦二年申年正月被仰出其後寛文九酉年二月ニ茂先格之通被仰出御受状一札共ニ印形取之候上代り年寄名前之儀町代共より御役所様江申上御定日ニ罷出候仕来りにて私之取斗ニ而無御座候処無益之印形仕候様相心得候義者歎ケ敷旨申答候処古京組町々より前々者町代共ニ拘り候儀ハ無御座候年寄より御受状奉差上候儀ニ御座候処右御請状者御奉行様宛ニ而帳面ニ仕當時者町代共方ニ差置印形を取外ニ一札等取之候右者前々より被仰渡茂有之候ニ付取来候様申立候得とも甚以不審鋪奉存候左候得者雑色方内年寄代り之節も別一札可有之儀ニ候得共此儀者無御座全無益之一札為差出権威ニ誇候基に可致儀と被存何分右一札差遣候

儀以來相止度無益之儀与一統相心得仮初ニも町役之印形無益ニ取候訳者家屋鋪讓狀之儀者讓主ノ其町年寄五人組宛ニ而相認候儀勿論にて右讓狀之御割印帳と申半紙堅帳ニ御宛名不認年寄五人組譲り主連印ニ而奉差上則御役所様之御帳面ニ相成候由にて右帳面譲り状ニ御割印被下置候外ニ御割印帳同様之文言ニ而御奉行様宛ニ仕半紙堅帳又者片折ニ相認年寄五人組譲り主調印仕差出候右者御役所様江相納り候儀と奉存居候所既ニ町代孫三郎持場之内ニ者右様之儀無之從來濟来候町分ノも有之入用無之品ニ候之得者外町代共方ニ入用可有之筋ニ者無御座右躰不用之ものニ付片折半帗帳と区々ニ相成候儀者甚以紛敷取斗ニ奉存候右之通無益之書付取之候故年寄代り之節之一札畢竟不用之儀と奉存候其外子歳丑年人数御改之節之書附并年寄持越御願節之願書或ハ家財改帳等何れ茂御役所様江奉差上候通り調印取之御奉行様宛にて町代共方へ取置候向も有之是等之儀甚以不相当之旨申立御糺被成下候所町代共より明曆二

下京高辻堀之内町加舎家文書 (四)

申年正月被仰出候と申立候者御所司牧野佐渡守様ノ町々年寄之夏廻り年寄者(ノリ)或若輩老病或無理非法之者多ク有之故申訳仕訴諍災難ニ成族多ク相定年寄無之町者早宿老を定置最前令触知ごとく毎月二日於会所諸事吟味可致等御下知之御触状御受状御案御添有之書留相見得右御請狀者御所司様江奉差上候歟町代方に取置候哉難相分此度申争ひ候一札之儀者認メ無之且又寛文九酉年二月ニ茂先格之通被仰出御受状一札共ニ印形取候と申上候得共右先格通と申立候儀は何を目当ニ申立候哉町代共ノ奉入御覽候寛文中之旧記帳面ニ者前書御受状与并御手紙写と認京町中年寄共案文之通手形両通認判形いたし持參可仕旨其外ニ一ヶ条認メ有之前ニ覚与有之候得者御覚書と相見へ御手紙之写与者不相見尤先格通被仰出候与申立候得とも左様之留書不相見且又一札之儀者旧記帳へ書続候留にも無御座半切帗ニ認案紙様成もの右帳面之間ニ括よ附有之前書両通と申儀者右御受状并一札之事ニ茂御座候哉一向不相当其外町代共ノ為

二四三 (二四三)

証拠奉差上候元録十五年正月間之町頭町々年寄代り
 ニ付差出し候一札文言者叮嚀ニ認メ有之大躰右一札案
 ニ符合仕候得共享保八卯年七月四条南膏葉之辻子寛延
 四未年二月上長者町通橋本町宝曆十四申年十一月新町
 通南四条町年寄代りニ付差遣し候一札者何れ茂横物ニ
 認メ有之其上少々宛文言も違御座候を其儘受取置候儀
 ニ御座候得共元極与者難申上先代之申伝ニ泥ミ右留書
 を以証拠ケ間敷申上候段今更可申上様無御座奉恐入重
 而町代とも一札不申受旨申聞候依之以来年寄代り之義
 御役所様江奉伺御聞届被成下候ハ、御定日年寄代り罷
 出御受状御役所様江差上候様仕度奉存候ニ付町代共江
 申談候所遺念無御座并讓状之節御奉行様宛ニ而町代共
 取来候書附之儀者区々ニも有之候ニ付右書付者勿論其
 外町役之印形有之書附るい向後申受間敷并御召状之御
 受書者印形いたし候得共相濟候ハ、直様返却仕候旨申
 聞候間何卒年寄交代之節御受状并一札之儀者前書之手
 続にて御聞届被成下候様奉願候矣

一古来者御触書ニ町代と斗相記候所近来苗字書記候ニ付
 向後已前之通仕度尤町家隨身之者ニ御座候所心得方相
 違仕候ニ付諸事苗字之儀者相止メ候様仕度申立町代共
 ヲハ御触書ニハ前々苗字名前共相認メ不申仰通書之
 分者前々苗字認相廻し来右ニ不限諸事苗字認来候儀
 之旨申答候処古京組町々ハ御触仰通書共前々名前
 無之候処近来之御触并仰通書とも苗字名前共相認メ相
 廻し亦者仰通書ニ而茂苗字名前無之相廻し候茂有之候
 儀之旨申立古京組町々奉入御覽候御触書ニ而者元録
 四未年十二月御城中御屋鋪方々江戸并諸国江被遣候御
 状箱請負日限延引荷物損ひ候儀ニ而御吟味之上之一札
 之儀ニ付御触書写ニ町代与斗認有之其外苗字名前者勿
 論町代与申儀も不認入も有之亦者御触書苗字名前認メ
 候茂有之区々ニ而其上御触書御文言可相触もの也と認
 有之奥ニ月日附之下江苗字名前認候儀者御役所様対し
 奉恐入是迄全心得違ニ付右之段区々ニ而御触書相廻し
 差滞候儀も無御座上者向後御触書仰通書写ニ苗字名前

等不認持參仕右之外何更不寄古格通町方へ対し苗字相
用ひ申聞敷旨申聞候事

一 町代共名跡相統之節古來者御役所様江古町より御願申
上取極候儀當時ニ而者一応之沙汰も不仕勝手儘ニ取斗
見習ひ御願濟之趣申參候儀全心得違にて右躰成行候而
者末々ニ至り猶又身分不弁之基ニ付古來之通ニ仕度申
立町代共々者名跡相統亦者見習ひ出勤其外共前々御
役所様江御願申上御聞濟被成下候上持場町々江沙汰仕
候仕來にて組町より御願申上候儀等決而無之旨申答候
処古京組町々より者町代共受状を取召抱候ものにて町
々給銀を取居候身分殊ニ町代共之内ニ者繼目見習ひ
等之節者今以組町江相届候ものも有之旨申立古來御役
所様江古町より御願申上候儀者申伝迄にて書留等難相
分候得共山内勝助先代之内山内安九郎并後見山内勝助
奥印ニ而宝曆十二年九月上京下中筋組之内江差遣候
定書ニ家督見習等之節組町江相尋可申旨之文言有之明
和元年申八月古久保勘左衛門儀寛文八申年召抱候後古

格忘却仕御役所様之威光を申立不埒相重り居親町老分
共々心得違之趣申聞候得共不用町意ニ不相叶候ニ付暇
差遣シ町代退役之儀居頭五町始組中親町連印を以東御
役所様江奉願候所即日勘左衛門退役被仰付跡代り之儀
者勘左衛門段々取託候(相之)ニ付悴儀助跡役聞届願之通申附
猶又御役所様江同十月御願申上御聞濟ニ相成候趣上京
下西陣組ニ留書在之町代共留書に者右勘左衛門町方依
願退役被仰附候儀者不相分候へ共勘左衛門跡儀助ニ被
仰附被下候様右申年八月願書差出し願之通被仰付候旨
御座候上者古京組町々申立ニ符合も仕候右等之趣ハ不
相心得町代共御答申上候段奉恐入此度一同改而被召抱
一札差入候上者向後見習ひ并死跡相統之儀者組町々御
役所様江御願申上其外何更ニ不寄町代共一体之儀ニ付
御願申上候儀御座候ハ、組中江申聞古町組々之奥印を
相頼候上ニ而御願申上自分用ニ付御役所様江罷出候節
者町並之通り町役付添土間江罷出候様仕候旨申聞候間
右之趣御聞届被成下候様奉願上候事

一町代共自分宗旨帳并居宅讓等之儀勝手儘ニ御役所様江
 差上申候何卒已来町家同様町役江向ケ差出候上相納候
 様仕度奉願町代共ハ宗旨帳直納之義者宝曆十二年
 七月東御役所様江奉願御聞濟被成下且又銘々自宅家屋
 敷讓狀之義老分之者加判を以仲ケ間江差出申度元文元
 辰年七月西御役所様江奉願御聞届被成下別段ニ差出候
 仕来ニ御座候ニ付勝手儘ニ取斗候儀ニ而者無之旨申答
 候処古京組町々者町代共儀町家江隨身之者ニ候所直
 納等之儀町々江何之噂茂不仕勝手儘ニ奉願候義我儘之
 取斗にて右躰勝手儘ニ仕候ニ付自ラ増長仕候故元文宝
 曆以前之通居町へ差出候様奉願候儀之旨申立候所町代
 共儀全古格取失ひ候義ニ而都而町住居之者ハ御堂上方
 様御家来ニ而茂無差別居宅譲り宗旨帳も町並一様之取
 斗之上者隨身之身分不弁讓之儀并宗旨直納仕候段者不
 速^(申)之儀ニ付向後宗旨帳人別御改并居宅譲り等之儀ハ不
 及申万更前々之通町並ニ仕町役之差図を請聊違背仕間
 敷旨申之ニ付以来ハ町並同様ニ仕度奉存候此段御聞届

被成下候様奉願候敷

一年頭御礼江戸下り入用并町代仲ケ間役料小番給銀部屋
 入用年々少々宛之違ハ有之候得共享保年中者老軒役ニ
 付三匁式分四厘程宛御座候処當時ハ余程之銀高にて尤
 前々ハ上下古京年寄町代立合勘定仕候儀ニ御座候処近
 来町代共斗勘定仕候ニ付疑惑仕候且又町代共奉申上
 候故歟御触之節給銀を役料と御座候何卒以前之通り給
 分と御認被成下候様仕度奉願候町代共よりは年頭御礼
 江戸下り入用并町代部屋入用小番給銀之儀享保年中者
 老厘式分余程宛ニ御座候処其後御年頭御献上物直段等
 茂年々高直ニ相成其度々増銀御届申上且年寄町代路用
 之儀其後年々諸色高直ニ相成道中筋割増等にて入用多
 ク相掛り其節増銀御願申上中座増銀見座御救銀も相加
 り且安永年中ハ出火之度々被召連候町夫人足雇賃其外
 右ニ付諸入用割懸り被仰付其砌ハ上町代下町代宿番被
 仰附且部屋入用等茂年々御用多相成候ニ付而者多分相
 掛候様相成當時ニ而者式匁九厘余相懸り右等之儀年々

御伺申上御吟味之上御触書御差出シ被成下候儀にて且役料之儀給分と申立候得共往古御触書通達其外御用向ニ被為召仕候儀故元來京町中之屋地子錢を町代共役料ニ被下置候所天正年中屋地子被為成御免許秀吉公御朱印頃戴仕御免後右為代り建家之分役家と御定右役家役料銀取之候様被仰出則取來候所享保八卯年御調之上年々御触書を以取集被仰附候儀ニ而前々役料銀と相唱來候所自分相對之様相心得於町々給分と申定候儀と奉存全元來之訳を不奉存故右之通申成シ如何斗敷敷迷惑仕候儀之旨申答候所古京組町々者諸式高直且道中筋割増等ニ而入用多相掛り候由申之候得共既ニ年寄路用として受取候銀子者式貫百八拾目宛請取候所安永六酉年々百目相増都合式貫百八拾目受取來候得共其後當時ニ至り増減無御座勿論道中入用者不及申諸入用相増候共年寄自分右路用之内ニ而取賄候儀ニ御座候故是迄不足之増銀受取候儀者一切無之候得者外ニ入用多分ニ相成候筋者無御座尤町代共江者右増銀百目共都合

式貫百式拾目宛請取候管ニ而是亦前同様別段入用可相懸儀ニ有之間敷候所町代共斗り勝手儘ニ右増残り銀三百目如何いたし候や不審敷奉存且また町代宿番被仰附部屋入用も多ク相成候段申立候得共是以安永八亥年十一月右宿番被仰附候節被仰渡候御ヶ条之趣ニ而者追々入用相増候被仰渡ニ而茂無御座尤丑年之取集高勘定凡積ニ而差引仕候処拾八貫目余も余銀有之右余銀ハ如何相成候哉難相分享保七年迄之通年寄とも立会勘定仕候得共疑惑も無之候得共當時町代共勝手儘ニ勘定仕候故疑惑仕候儀ニ御座候且又給銀之儀ニ付色々不都合之儀共申答候得共町代共之内ニ者召抱候節違背仕間鋪と申受状も有之又者給銀之請取或ハ合力銀之一札等も有之所右等之訳を押隠シ種々申謀候儀不埒ニ奉存仮令如何様ニ申謀候共給銀を与へ町々代ニ差出置候者ニ相違無御座乍恐彼等か町代と申名目を以御賢察被成下右屋地子を役料ニ被下候扱と申立候儀及承不申全偽り之儀共奉申上候儀にて御上様不恐致方言語同断不埒之旨申

立双方申立之趣御糺被成下候所屋地子御免許後為代建家之分役家と御定右役家ノ役料銀取之候様被仰出候儀者申伝而已ニ而証拠無御座役料と申儀は町中之代役ニ罷出相勤候儀ニ付自分之役儀と相心得給分を役料と先祖之ものノ申習候儀と相見得上古京ノ寛政四子年御役所へ差上候書付享保七寅年迄者献上物入用其外諸入用共上京之年寄并町代立会勘定仕来候所享保八卯年十一月ノ右諸入用銀御吟味之上此已後御年頭諸入用之儀ハ町代会所江持参致候様被為仰付候ニ付其後ノ年寄共一切立会不申旨認有之町代共申立候者留書等ハ無之候得共享保七寅年迄ハ江戸下り入用洛中斗りへ相懸り候所全鉢江戸表へ年頭御礼申上候儀者京都一統為冥加奉申上候事ニ候得者洛中洛外惣寺社門前境内并町中之分不残平均可相懸筋之由ニ而御調御座候趣承伝候旨申上翌卯歳之御触書ニ年頭御礼惣町中為名代江戸下り入用洛中洛外惣寺社門前境内并町中之分沓軒役ニ付三分四厘三毛宛可出之町代仲ヶ間役料并小番給銀部屋入用寺社

門前除之洛中之分沓軒役ニ付八分九厘六毛貳宛メ沓匁式分三厘九毛貳宛洛中より可出之六角堂前鐘撞給銀下京ノ出候ニ付外沓軒役ニ付六毛余宛下京ノ可出之右者御吟味之上被仰渡候間当卯八月改候役數之通町限ニ取集町代惣会所へ行事町ノ持参致受取を取可申旨之御触書御差出し有之其後元文度ニ相成金銀御吹替ニ付諸色高直ニ成候得共町代共役料増無之古銀之負數を文字銀ニ而取集候故難儀之旨元文五申年相願候所銀替之儀程過候而割増難被為仰付候ニ付御銀拜借被仰付候得共追々返納仕寛延元辰年十一月ニ町代共より朝鮮人來朝其外不時物入等多く困窮難儀之由ニ而洛中洛外江相掛り諸入用取集之節五分宛相掛上下町代取来候役料高ニ応し配分仕度御救之儀西御役所様江奉願候処御聞届被成下先式分相掛ヶ追而時節を相待相願候様被仰渡猶又宝曆十一巳年十一月ニ是迄見合罷在候得共不時御用之入用銀多ク町方江割懸かさ高ニ相成候ニ付差扣居候所右巳年者御年頭入用是迄之懸り高等ハ三分相減候に付先

達而願置候儀ニ御座候間割増之儀町代一統御救之儀西御役所様江相願候所式分相掛候様御下知被仰渡都合四分宛御救銀頂戴仕候由其外江戸下り路用増之儀安永五申年冬惣軒役之上江式厘御加へ取集被仰附被下候様西御役所様江相願候処御聞届被成下翌酉年々増銀頂戴仕且出火之節町夫人足履賃等追々ニ入用相増町代共依同年々御触書を以入用銀御取集被仰付候趣初而承知仕年來疑惑仕候得共増減之儀疑念相晴御役所様々被仰出候儀ニ付可申上候様無御座候得共御救銀相願候へ、町中へ申聞得心之上御願可申上候所前書之通身分忘却仕都而町中心得違之様ニ不束之御答申上候程之者共ニ而町中江不申聞我儘ニ相願候々年頭入用銀先年々多分相懸り町中疑念仕御役所様々御触書之趣不願御札之儀古京組町々之者共相願候段不束ニ相当り町代共不埒と奉存此度及引合候所全先代之者町中江不申聞奉願候ニ泥年來相願罷在候儀共不行届不調法之段恐入御救銀拾八貫目之儀重而御願申上間鋪申聞候ニ付町代共万一身上難

取統節ハ町中々合力致候積熟談仕年頭御札江戸下り年寄町代増銀九百目之内年寄町代老人前百目宛受取残り三百目之儀者右江戸下り入用操合仕候旨申聞是又疑念相晴享保八卯年々は江戸下り入用洛外惣寺社門前境内までも相懸候儀者町代共承伝而已にて取極り候儀ニ者無御座右卯年已後年々御触出候儀古京ニおゐて組町々一統承知仕罷在候得共入用増疑惑仕候儀者洛外迎茂同じ事之儀と奉存候間向後疑念無之様上下古京年寄共立会を請申度旨町代共申之候ニ付來卯年年頭御札江戸下り入用并小番給銀部屋入用等享保以前之通年々上下古京年寄立会之上明白ニ勘定仕御役所様江町代ともより御触之儀奉伺候様仕度且町代共給分之儀を役料と町代共々申上御触書ニ御書出し被成下候処向後町々組々々直ニ相渡候ニ付御触書ニ右ヶ条町代共々御願申上間敷候間御聞届被成下候様奉願上候夏

一町代共之内近來我儘ニ玄関式台を拵高張を立置候全身分忘却いたし權威ニ募候故之儀ニ御座候間為取払申度

町代共々八年寄替之節御請状ニ印形取之候様被仰出則年寄銘々町代宅へ印形持參候節且者長き御触等御差出之節書分居候而者隙取候故年寄共相招キ為写取候節談之間ニ仕今ニ其姿にて玄関と申物ハ無御座勿論式台与申物も無御座且亦高張与申もの者無御座釣燈灯銘々所持罷在御所司様御上京之節山科迄御出迎ひ申上候節町々年寄町代共立宿江相届候節為目印町代在宿表之方ニ釣燈灯ニ合印を付差出置候尤安永年中町夫代人足被仰附候以前者火事場江町々火消人足罷出候砌於場所ニ組町々之者集候節町代共集り居候場所江為目印前書釣挑灯を建昼之火変ニ者白き幟に紋を附右場所江建置候様延宝五巳年被仰附其外町代共駈付被仰附町々之者集節目印相用ひ候儀之旨申答候ニ付古京組町々高張を釣挑灯と申立候得共右釣挑灯ハ当之字を丸キ紋形ニ崩下ニ青海波之合印付有之御所司様御上京之節山科迄御出迎申上候節町代共立宿ニ為目印二張釣直候儀ニ而右挑灯とは違町代居宅入口に自分紋之高張挑灯平常建置

有之并玄関式台等在之候も見届相願候儀之旨申立候ニ付延宝年中元極之書留御糺被成下候所

一 火事場江火消人足罷出候節從先年着せ申候通り之白キ神袖なしの羽織ニ如此之紋所を付其下ニ町之名を書附着シ手桶を持可罷出事

一 当町々如此紋所を附高挑灯を持可罷出候事然者其町之印之所へ其組町不殘集居可申爰

一 尤町代方にて此紋所を附たる高挑灯為持罷出候間此下へ不殘可參事

但シ昼火事ニ者白き幟右之紋を付可申事

右之通町中江町代心得を以可申渡候由御奉行様被仰渡候旨被仰伝候と認有之前書如斯紋所を付町代方ニ而も此紋所を附たる高挑灯を為持罷出候様被仰渡候由ニ而何之紋附候哉難相分古町々安永年中迄者火消人足町々之印有之木綿法被を着昼之火事ニ者木綿幟ニ組々之紋を付其外町名記シ夜ハ町名記シ候高挑灯を持參其所江持場之町代共夜者手挑灯ニ而罷越候趣申伝へ今以其

品々相残り有之御所々様御所司江之駈附等之節相用來旨申立左候得者町代共儀先年被仰付候旨駈与申立候得共右書留ニ而者不分明之儀ニ有之得与難相分儀を品能御答申上候段不束之至奉恐入候旨ニ而以來玄關式台等者勿論高挑灯建置候儀仕間鋪旨相詫挑灯ハ取片釣鈿挑灯迎茂平日ハ釣置間鋪紛數目立候普請決而仕間敷旨申聞候事

一 毎年町代共江宗門帳写差遣來候得共已來之儀者町分江取集下書差遣候様仕度奉願町代共々者宗門帳之義古來者持場町代方へ町々々取集町代共々御役所様江差上候処已來者御役所様へ直納ニ致候様享保八卯年七月御触書御差出シ町代方江者御役所様へ相納候通半紙帳ニ相認扣取置候様被仰渡候尤印形も有之写ニ而者無之旨申答候処古京組町々々ハ町代共方ニ扣取置候様被仰渡候儀町々之者不奉存寛文之頃々之宗旨帳差上候様安永六酉年御触有之町々々奉差上候儀ニ而左候得者町代共へ扣取置候様被仰渡候儀者不審敷御座候尤年々町内ニ扣

帳仕置候得者御入用之節者何時ニ而も可奉入御高覽町代共方へ扣差遣候儀者畢竟不用無益之儀ニ御座候故下書ニ而茂事濟候儀与奉存町代共方ニ扣を取置候儀者何等之為ニ候哉何れ茂御奉行様宛にて調印之上取置候儀者難得其意旨申立候ニ付御糺御座候処享保八卯年七月宗門帳扣町代共方へも請取置候様被仰渡候ニ付口上ニ而町代共々行亥町々江申廻シ候様町代扣之御触帳ニ留書相見江古京々差上候組町々ニ有之候同年御触書留ニ町代扣取置候様被仰渡候趣町代共々申廻シ候留不相見得候得共同年仲組九町御触留之内ニ御役所江上り候耆冊斗り紙者美濃紙ニ而候ハ、薄御座候を御用ひ九月十日々十二日迄御役所様江持參仕候様田内彦兵衛より申越候趣留書御座候へ者町代共へ扣差遣候儀者年古き事ニ可有之哉且又安永六酉年寛文之頃々之宗旨帳面差上候様御触之義者別段御調之儀有之旨被仰渡候儀於古京組町々承伏仕候併町代共儀御奉行様宛ニ而調印仕候扣取來候儀者不相当之儀ニ奉存候間已來申受間敷旨申聞

候ニ付然ル上者是迄之通美濃昏帳半紙帳等式冊相認東西御役所様江奉差上度此段御聞届被成下候様奉願候夏
 一 小番之儀者是迄町代共勝手儘ニ召抱候得とも是以給分町方ハ差遣候得者向後召抱候節親町江相断候様仕度旨申立町代共ハ小番共之儀諸御用向ニ被為召仕候者之儀ニ付是まで町代共より身元相札御役所様江御届ケ申上差出候ものニ付前ハ町方江抱り候儀無之旨申答候如古京組町ハ町代共身分者組町より召抱御用為承候者にて其小遣を仕候小番之儀にて殊に町方ハ給銀差遣候者故町代共之勝手儘ニ可仕道理ハ無之ニ付親町へ相断候迎子細有之間鋪奉存候所相拒候段不束与奉存候旨申立候所町代とも得心仕已来小番共召抱候節者人柄実躰成もの相撰組町ハ江町代共ハ相届候上為相勤候旨申聞候夏

一 町代之儀者町ハ養ひ遣し候得者町家江隨身之者ニ候所御役所様江罷出候ニ付自然と御役人様方与同様之心得ニ相成是迄御白洲ニ相詰候儀は不及申御役人様方御

詰所先へ帯剣ニ而罷出御用承り候儀如何鋪奉存御役人様振ニ仕成候而者恐多奉存候間無刀にて御召遣ひ被成下候様仕度奉願町代共ハ前ハ之任来りニ而帯剣仕候義之旨申答古京組町ハ者町中ハ御役所様差出置候身分を不相弁近来権威増長仕候故此上御役人中様振ニ仕成候而者紛敷甚以恐多奉存候故無刀ニ而差出候様仕度段奉願候得共町代共義向後御役所様江罷出候節之帯剣之儀者是迄之通ニ而罷出申度組町ハ江罷越候節并自分用にて罷出候節者無刀ニ仕其外町代共仲ケ間相立老分抔と申立奥印為致何夏ニ不寄組町ハ江茂不申聞勝手儘ニ御役所様江御願申上候儀決而仕問敷旨申聞候ニ付於古京組町ハ茂承知仕候事

右ケ条之通申分無御座双方熟談内濟仕町代共も寛延三年天明八申年被仰渡候御触之趣此上忘却不仕様急度相守候旨申之改而請状取置申候且又前文ケ条之内從來等閑ニ仕置品ハ奉願候段御吟味中御察当を請奉恐入候得共町中之者共家業ニ被追銘ハ其日を過候町内限寄合

仕候節者只町代共身分之儀申出候而已組々町々多人數之儀ニ付是迄互ニ申合居候斗ニ而年月を送り罷在候所昨年以來時節到來仕京中町々一統同意仕御願申上追々御吟味御利解被成下候所町代共身分相弁候付而者下古京之者八組之内五組ハ御願申上三組者御願不申上罷在候ニ付右三組之内ニ召抱候町代助九郎甚内儀者相手取不申候所右之通熟談相調候上者右三組之者共も下京一躰之儀ニ付五組同様町代助九郎甚内江及熟談候処相手町代拾人之者共同様承伏仕此度上下京古町々一統同意ニ相成京都市中之者共年來相合候宿意相晴偏ニ御威光と難有仕合奉存候何卒右等閑之段者御赦免被成下熟談通御聞届ケ被成下候ハ、古格ニ復シ市中一統安氣仕此上永統可仕と重々難有仕合奉存候且亦右之通町代共町中之存意ニ随ひ候迎町分之仕向ニ泥シ御用向其外御触等之差支ニ不相成候様仕町々年寄共者勿論市中一統是迄之御触通急度相守聊我儘之儀等決而不仕組々嚴重ニ申合候様可仕候然ル上者右一件ニ付町代共紛數仕向不

仕双方ハ此度奉差上候証抛物之外ハ聊無御座候得共後年ニ至り証抛之品等有之候旨申立決而御願申上間敷候為後日之上下古京組々町代共一同連印濟証文差上申所
如件

上古京十二組

組々年寄中

相手町代中

上古京八組

上良組

年寄中

仲九町組

年寄中

仲十町組

年寄中

四条三町組

年寄中

川西九町組

年寄中

同 田中伊兵衛

南良組

山田町

年寄中

同 齋藤弥右衛門

巽組

傘鉾町

年寄中

同 齋藤庄八

佐野肥後守

木賊山町

御裁許

同 畑 宇兵衛

古京川西十六町組

風早町

麓町

同 倉田七兵衛

年寄 北尾久兵衛

芦刈山町

樋口町

同 藏立善助

同 多田半兵衛

菅大臣町

永養寺町

同 荒木茂兵衛

同 和田伊兵衛

藤西町

綾西洞院町

同 岩崎藤兵衛

同 石井甚助

堀ノ内町

太子山町

同 安岡彦兵衛

本柳水町

同 片岡勘助

西高辻町

同 高木左兵衛

舟屋町

同 山下安兵衛

文政元十寅十二月十日

町代

助九郎

同

彦兵衛

同

甚内

同

左兵衛

同

栄次

下京高辻堀之内町加舎家文書 (6)

同

政五郎

御奉行様